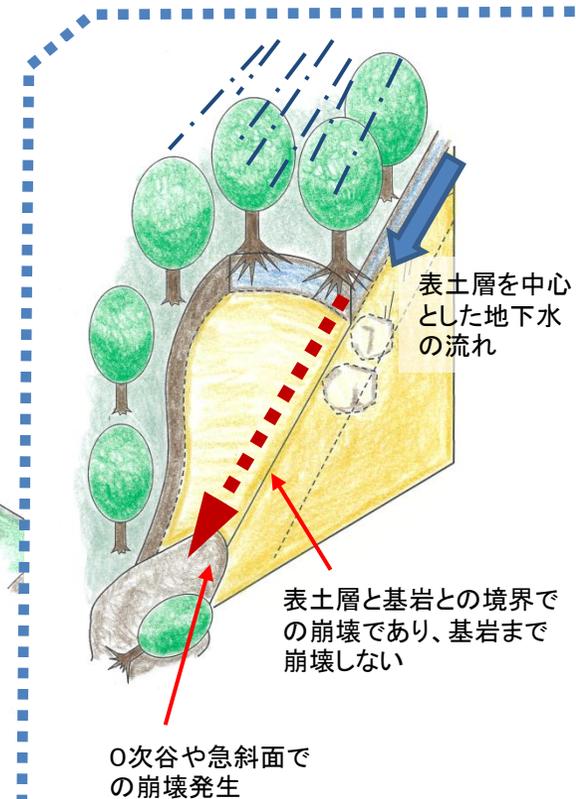
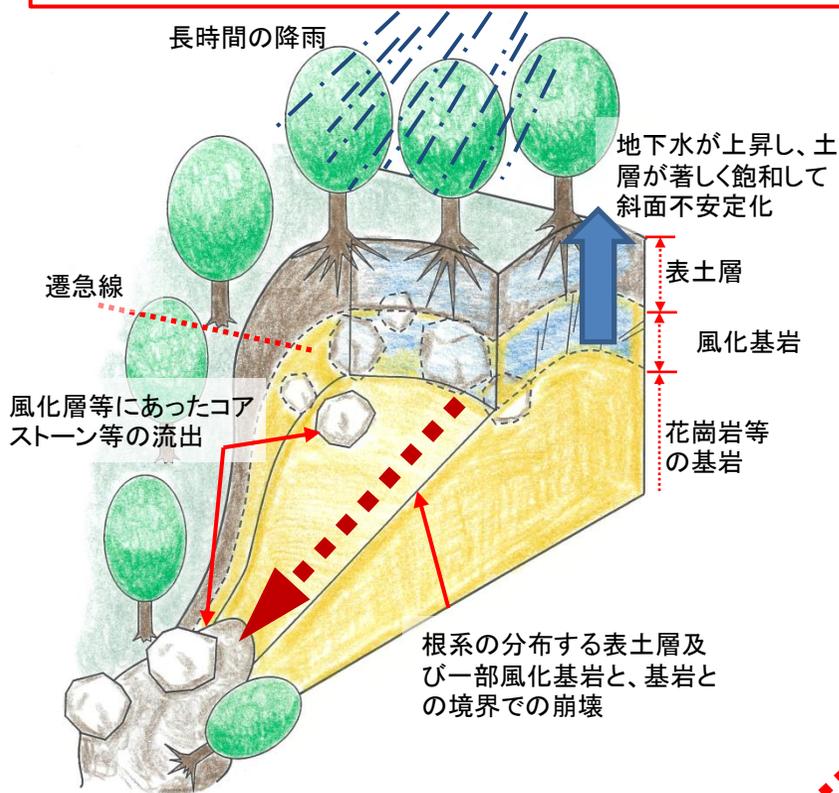


◆中間取りまとめにおける崩壊発生メカニズム

●長時間の降雨による尾根部付近も含めた崩壊(平成30年7月豪雨の特徴)

- ・尾根部付近*は、傾斜が緩やかで土層が厚く、通常崩壊は発生しにくい。
- ・数日間に及ぶ長時間の降雨により雨水が凹地形等に集中。その上流部にある尾根部付近も土層が著しく飽和。
- ・地下水の上昇などにより、不安定化して崩壊が発生。
- ・崩壊や溪床・溪岸侵食の過程で、コアストーン等も流出。

*0次谷上流の遷急線上部の緩やかな斜面



●0次谷や急斜面での崩壊(平成30年7月豪雨のほか、他の豪雨でも発生)

- ・降水が集中しやすい0次谷や、表土層が薄い急斜面では、豪雨による地下水位の上昇が早く、崩壊につながりやすい。